

子どもと学生が共に学び、成長する 「地域共育」の取り組み

URL <http://terakoyachiba.web.fc2.com/>

twitter https://twitter.com/terakoya_chiba

facebook <https://www.facebook.com/Terakoyachiba/>

「てらこやちば」は、子どもたちの居場所を地域の中に作り、世代を超えて共に学び、共に成長する「地域共育」の活動を展開しています。2011年に設立され、植草学園大学、淑徳大学、千葉大学の学生が中心になって運営しています。学生の登録者数は約200名。主力として活動している3名にお話を伺いました。

子どもと同じ目線で楽しむ 身近なお兄さん、お姉さん

「てらこや」の活動は全国各地で展開されており、北海道から沖縄まで約40の団体があります。それぞれ地域の特色を生かした



独自の事業を行っており、ネットワークが組織され、交流もさかんです。

「てらこやちば」は千葉市をベースに、主に小学生の子どもを対象にして活動しています。中心事業となっているのが、月2回、15～20名の子どもがビルの一室に集まって

作業や料理など、様々なクリエイションに取り組む「てらこやハウス」。

マンツーマンでの対応が基本なので、子どもと同数以上の学生が参加します。取材に訪れた日は、「てらこやハウス」の開催日。昼食時で、子どもと学生が車座になって仲良く食事を取っていました。冗談が飛び交う和やかにぎやかな雰囲気です。「上から指導するのではなく、子どもと同じ目線で一緒に楽しむ姿勢を大切にしています。身近なお兄さん、お姉さんのイメージですね」と千葉大学の横山さん。

子どもと学生が馴染みの関係を築いており、子どもにとって安心できる居場所になっていることが伺えました。

アイデアと遊び心にあふれる 様々な活動を展開

「てらこやちば」の最大のイベント「逃走なう」は、年2回、淑徳大学のキャンパスで実施する鬼ごっこです。子どもと学生がペアになって協力しながら、捕まらないように走り回ります。多い時には子ども160名、学生200名ほどが参加するほど人気高いのだとか。ただ楽しむだけではなく、大学という地域資源を、子どもたちに開放して知ってもらおう狙いもあります。



子どもが地域社会とつながる取り組みが「中央ウォークラリー」。

その名の通り千葉市中央区の商店街を、学生と一緒に回って、地域の人と交流していきます。学生があらかじめ店と交渉して協力をお願いしますが、学生にとっての学びの場であると同時に、商店街の方たちが「てらこやちば」の活動を知るきっかけになっています。

「夏合宿」は、子どもと学生が自然の中で2泊3日の共同生活を送るイベントです。親元を離れて仲間と協力しながら食事作りなどを体験することで、子どもは仲間との絆を深め、ひと回り成長します。

そのほか、華道や茶道などの日本の伝統文化を体験する「伝統文化体験プロジェクトDo」、行ったことのない場所に遠足に行く



「とほいこっ!」、畑で野菜を育てる「てらちばたけ」などを継続的に実施しています。

子どもの成長に寄り添いたい

「てらこやちば」は、毎回、活動の後に振り返りを行って、子どもの様子や活動の課題について意見交換を行っています。淑徳大学の早坂さんは、初めて「てらこやハウス」に遊びに来た時に、振り返りの様子を見て、活動に参加することを決めたと。「一人ひとりの子どもをしっかり見て、その成長ぶりを的確に把握していたので、すごいなと感じました。私も子どもの成長に寄り添いたいと思いました」

最後に植草学園大学の勝又さんに、今後の抱負を伺ったところ、「私たちの活動から派生して県内に『市川てらこや』が誕生しました。これからも、これまで培ってきたノウハウを生かして、この活動を広めていきたいと考えています」と教えてくれました。



様々な個性の子どもたちと寄り添えるのが魅力。さらに考え方の異なる学生との関わりも、この活動の面白さです。

企画を一つ立ち上げるにも、学生が集まって知恵を出し合う。一つの目標に向かって活動する一体感が素晴らしい!

身近な地域をもっと元気にしていきたいし、関東近県の「てらこや」の活動団体が合同で、福島の復興支援事業にも取り組んでいます。

早坂優里さん
淑徳大学
総合福祉学部2年

学生代表
勝又陵さん
植草学園大学
発達教育学部3年

事務局
横山嶺さん
千葉大学
教育学部4年

